

神経内科

1. 概要

2015年のスタッフは、4名でスタート、4月に1名入れ替わり、9月から1名加わり5名になったが、その分仕事量も増えた。

入院診療：総入院患者数は、昨年より90人ほど増加し689人だった。主なトピックは、以下のとおりである。

- ① 細菌性髄膜炎の起炎菌としては比較的少ない、リステリア菌や肺炎桿菌などの例があった。
- ② ALS治療に、従来脳梗塞の治療薬として使われていたラジカットが認められ、初回治療のため数名入院した。
- ③ 昨年同様、高齢者のてんかんが多く、最近話題になっている、非けいれん性てんかん重積状態（NCSE）と考えられる例もあった。

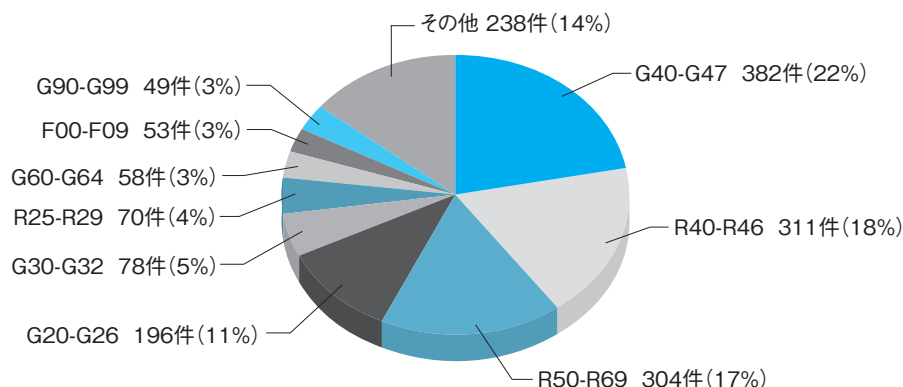
退院・転院に際し、家族背景や社会的背景の難しい人が増えており、患者総合支援センターは無くてはならない存在である。

外来診療：年間の外来患者数は8,876人で、その内初診者数は1,334人とほぼ昨年と同様だった。周辺地域の神経疾患患者が当院に集中する傾向は、昨年と変わらない。ALSの新規発症者の多い年だった。

（部長 李野 謙次）

2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,739件

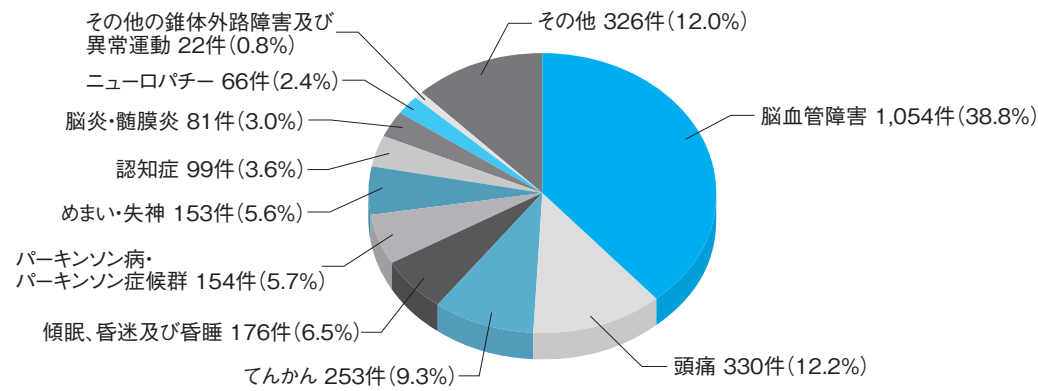


ICD-10 中間分類項目
G40-G47：挿間性および発作性障害
R40-R46：認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候
R50-R69：全身症状および徴候
G20-G26：錐体外路障害および異常運動
G30-G32：神経系のその他の変性疾患
R25-R29：神経系および筋骨格系に関する症状および徴候
G60-G64：多発（性）ニューロパチ〈シ〉ーおよびその他の末梢神経系の障害
F00-F09：症状性を含む器質性精神障害
G90-G99：神経系のその他の障害

3. 活動報告

(1) 疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：2,714件



(2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数 (件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	154
2	多系統萎縮症	8
3	脊髄小脳変性症	15
4	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	17
5	重症筋無力症	18
6	多発性硬化症	13
	計	225

学会発表（医局）

<神経内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	1年余に渡り、改善が得られない抗 NMDA 受容体脳炎の1例	筆頭演者	岡崎 敬正	第225回東海地方会	2015/2/22
2	POEMS症候群における表皮内神経線維密度	筆頭演者	大山 健	第56回日本神経学会学術大会	2015/5/20
3	急性自律性感覚性運動性ニューロパチーでみられた自律神経障害の経時的変化	筆頭演者	大山 健	第68回日本自律神経学会総会	2015/10/29
4	自律神経障害を合併した急性感覚性ニューロパチーの1例	筆頭演者	大山 健	第68回日本自律神経学会総会	2015/10/29
5	rt-PA静注療法中に腎梗塞を合併した心原性脳塞栓症の1例	筆頭演者	原 敬史	第33回日本神経治療学会総会	2015/11/26

座長・司会（医局）

<神経内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	明日から使えるてんかん診療のコツ	空野 謙次	東三河てんかんセミナー	2015/3/6
2	老年医学からみた認知症治療	空野 謙次	第30回神経内科認知症研究会	2015/6/11
3	心原性脳梗塞の発症予防と急性期再開通療法	空野 謙次	第20回東三河脳卒中懇話会	2015/6/27

講演（医局）

<神経内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	脊髄小脳変性症と多系統萎縮症のはなし	空野 謙次	あゆみの会講演会	2015/9/25